

ケーブルテレビ関連資料

～ 伝送路光化の現状を中心に ～

2017年4月19日

光配信アドホックグループ 会合資料

一般社団法人 **日本ケーブルテレビ連盟**

ケーブルテレビの伝送路の現状

総務省「ケーブルテレビの現状」
(平成29年2月)より転載

(1)伝送路の現状

○ 登録に係る自主放送を行うための有線電気通信設備(671)における地域別FTTH導入状況

平成28年9月末現在

	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄	合計
FTTHを導入している設備数	9	24	54	36	18	34	46	44	42	65	1	373
うちBS-IF パススルー 実施設備数	6	15	21	20	8	27	34	23	36	32	0	222

○ 有線電気通信設備を用いて自主放送(有線一般放送)を行う登録一般放送事業者の伝送路の現状

平成28年9月末現在

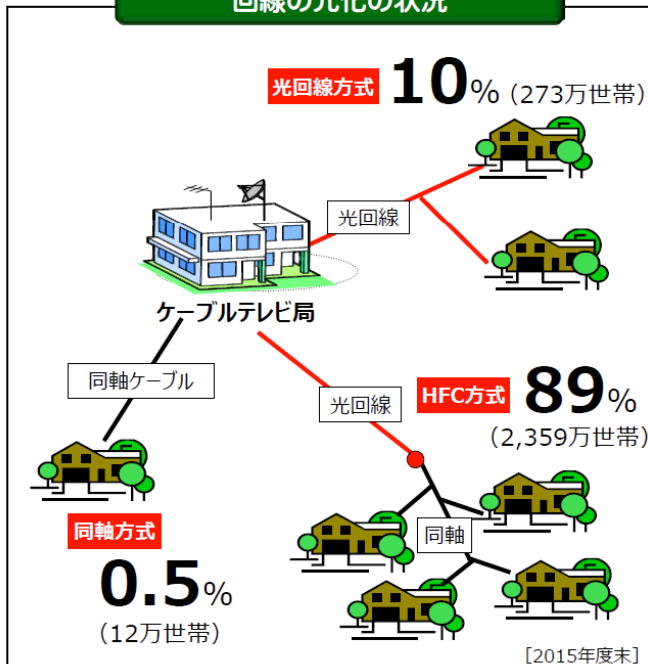
FTTH方式により放送を行っている事業者	293
FTTH方式のみ	128
FTTH方式及びHFC方式	150
FTTH方式、HFC方式及び同軸方式	10
FTTH方式及び同軸方式	5
上記以外でHFC方式により放送を行っている事業者	198
HFC方式のみ	190
HFC方式及び同軸方式	8
同軸方式のみにより放送を行っている事業者	18
合計	509

※ FTTH…… Fiber To The Home の略。各家庭まで光ファイバーケーブルを敷設する方式。

※ HFC…… Hybrid Fiber Coax の略。CATV局から光ファイバで配線し、途中から同軸ケーブルで各家庭まで線を引き込む方式。

- 光回線方式 (FTTH) の加入世帯は10%。約90%は、光回線と同軸を併用したHFC方式の加入世帯。
- 現行の第2世代STBでは2K対応のため、4K対応には、第3世代STBへの移行が必要。

回線の光化の状況



STBの状況

- STB(セットトップボックス)とは、ケーブルテレビを通じて多チャンネル放送を受信する専用の受信機

第2世代STB [現行]



- 2K視聴
- 認証・課金 等

第3世代STB



(想定される機能例)

- 4K視聴、8K対応
- リモート視聴
- 視聴履歴収集
- マイナンバー対応
- 認証・課金 等

ケーブルテレビにおける衛星放送の再放送方式

方式	概要	伝送路	加入者設備	伝送路・受信設備の観点での長所・短所
トランスモジュレーション	受信した信号の変調方式をHEでQAMに変換し、770MHzまでの放送帯域において、6MHz/chで伝送する	同軸 HFC FTTH	770MHz対応の受信設備において、STBで受信	<ul style="list-style-type: none"> ○UHF帯域までの伝送なので、既存棟内設備へのつなぎ込みが容易 ○ほとんどの場合、棟内設備の改修が不要 ●視聴するテレビごとにSTBが必要 ●衛星チャンネルの増加が他のサービスの伝送帯域を圧迫する ●高度BS/CSでは256QAMが必須となり、伝送路の特性改善が必要な場合がある
IFパススルー	受信パラボラアンテナからのIF信号をHEで一括してE/O変換し、光信号で伝送する	FTTH	加入者のV-ONUでIF信号に戻し、BS/CSチューナ付きTV等で受信	<ul style="list-style-type: none"> ○IF伝送なので一般TV等で受信でき、STBが不要 ○衛星チャンネルが増加しても、他サービスの伝送帯域を圧迫しない ●FTTH伝送路でしかサービスできない ●伝送帯域の拡大によりV-ONUの改修・取替えが必要な場合がある ●棟内設備が所要の帯域に満たない場合は改修が必要